

2023

コースガイド

和の伝統文化コース

<2023/05/08更新>

p.14～p.18の履修モデルを修正しました。

<2023/04/07更新>

p.5「4. 専門教育科目一覧」に2023年度に閉講する科目について追記しました。



学校法人 瓜生山学園

京都芸術大学 通信教育課程

本コースでは、日本の伝統的な文化や芸術の特質を知るとともに、その今日的な意義を把握することを目標とします。東アジアの文化は理論的構築物の形ばかりではなく、さまざまな芸術ジャンルとして実践的に身につけられ、親しまれてきました。そのため本コースでは、通信教育とはいえ、実際に身体を用いた演習授業も多分に取り入れています。しかし、特定のジャンルや流派のお稽古をすることが目的ではありません。本学で伝統文化を学ぶメリットは、さまざまな領域を総体として俯瞰し、そこに共通に現れる基本的な考え方、あり方を掴む、という点にあります。たとえばお茶やお花の実践を深めたい方は、それぞれに優れた流派がありますので、大学での研究とは別のものとして（あるいは並行して）各自で学んでください。

日本の文化と芸術は諸外国の大きな影響下にありながら、そこに独自のスタイルを作ってきたという歴史があります。そうして生まれた日本の生活の美しさや精緻な芸術的感性は異国の人々の心をも打ってきました。また外国を旅してあらためて自国の文化の美点を見直したひとも多いでしょう。しかしそれをひとたび頭で整理したり言葉で表現しようとするや、ステレオタイプな日本文化論に陥りがちです。実際のところ、文化をひとことの標語で表現しようとすること自体に無理があります。多彩な現れ方をしてきた日本文化の性質を探るためには、それを単純な言葉によって何らかの根本へと還元していくというよりも、むしろ複数の根に支えられた一本の幹と、そしてまたそこから張りめぐらされているさまざまな枝の織り成す姿として総体的に確認していくことの方が稔り豊かでしょう。

本コースでは、いたずらにグローバリズムに棹差したり、あるいは偏狭な自国中心主義にとらわれたりするのではなく、文化の重層性や文化間の相互交流を評価しつつ、私たちの文化のありかたを見つめなおすという課題を引き受けなくてはなりません。そのため、本コースのカリキュラムは次のような3つの科目群から構成されています。伝統文化の根幹となる思想を知識として学ぶ科目群。これらは指定教材の読解とレポートの添削講評という形で授業がなされます。次に日本文化の特色と伝統芸術の世界を学習する科目群。これらは講義形式の授業です。そして日本文化の美意識や伝統芸術の「こころ」を実践を通じて学ぶ科目群。これらは実際に伝統文化に触れる演習形式のものです。このような学習を通じて知見を得た上で、最終的には各自それぞれの関心にもとづいた研究テーマを定め、論文や報告書といった卒業成果物の作成を目指します。この過程ではゼミ形式の議論や中間報告書の添削指導、そして個別面談が行われます。

以上のような学習・研究を通じて、伝統的な文化や芸術を過去のものとするのではなく、現代の私たちの身についた教養として、日々の仕事や生活に愉しく生かしていただければ何よりです。

目次

1. 学習を進めるにあたって	2
2. 和の伝統文化コースでの学習の進め方	3
3. 2023年度の主な変更事項および注意点	4
4. 専門教育科目一覧	5
5. 卒業要件、卒業研究着手要件	7
6. カリキュラムマップ	10
7. 芸術学科専門教育科目 スクーリング日程	12
8. 和の伝統文化コース専門教育科目 スクーリング日程	13
9. 履修モデル	14
10. 新旧科目対応表	19
11. 論文研究・卒業研究	20
12. 過去の「卒業成果物」閲覧申込	22
13. 学外スクーリングを受講される方へ	23

『コースガイド』を使って履修計画をたてましょう

通信教育では通学制と異なり自分で履修プランをたて学習をすすめることが重要です。

入学許可後は、airU学習ガイドやシラバスを確認して履修計画をたてましょう。airUマイページでは履修プランを作成することができます。



本学通信教育課程では「履修登録」がありません。年度途中に新規科目に取り組むことも可能です。また、履修状況や学習環境の変化によって履修プランをたてなおし、学習をすすめていくことができます。

1. 学習を進めるにあたって

学習を進めるにあたっては、airU学習ガイドもあわせて参照してください。

1. 履修形態

通信教育課程における開講科目は、「テキスト科目」と「スクーリング科目」に大きく分けられます。
本学通信教育課程では、自宅学習や対面授業、レポートや作品など課題によって科目の形態が6種類あります。

テキスト科目	TR	テキストレポート科目	レポート課題と単位修得試験のある科目	自宅学習
	TW	テキスト作品科目	作品課題の科目	
	TX	テキスト特別科目	卒業関連科目、論文研究など特別な科目	
スクーリング科目	WS	ウェブスクーリング科目	Web上での動画学習とレポート試験／作品課題がある科目	対面／遠隔授業
	S	スクーリング科目	対面／遠隔授業のある科目	
	GS	藝術学舎科目	本学が開講する公開講座藝術学舎を受講する科目	

2. 履修期間・課題提出期間

それぞれ3ヶ月タームで履修の区切りがあります。課題提出期間は科目区分によって決まっています。

課題提出・単位修得試験 スケジュール		春期			夏期			秋期			冬期		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
TR	テキストレポート科目	レポート 21～30		試験 1～8	レポート 21～30		試験 1～8	レポート 21～30		試験 1～8	レポート 21～30		試験 1～8
TW	テキスト作品科目	作品 11～20	作品 11～22		作品 11～20	作品 11～21		作品 11～20	作品 11～20		作品 11～22	作品 11～20	
TX	テキスト特別科目	課題の提出期間は科目により設定されます。											
WS	Webスクーリング科目		レポート 21～28	最終講評 13～20		レポート 21～28	最終講評 13～20		レポート 21～28	最終講評 13～20		レポート 21～28	最終講評 13～20
S	スクーリング科目		夏期先行募集 17～25			秋期先行募集 17～25			冬期先行募集 17～25				2024年度 春期先行募集 3月下旬
		春期追加募集 12～(開講30 ～5日前)		夏期追加募集 10～(開講30 ～5日前)		秋期追加募集 9～(開講30～ 5日前)			冬期追加募集 9～(開講30～ 5日前)				
GS	藝術学舎科目			夏季申込 6月初旬～			秋季申込 9月初旬～			冬季申込 12月初旬～			2024年度 春季申込 3月初旬～

- ・対面の単位修得試験の今年度の試験実施日と受験申込期間はairU学習ガイドを参照してください。
- ・スクーリング科目における追加募集の締切日につきましては、airUマイページ>スクーリング>「スクーリングを申し込む」>スクーリング一覧より確認してください。

卒業判定にかかる方は卒業関連科目以外の科目を冬期（1月～3月）に履修することはできません。

※ただし、卒業要件の必修TR・TW科目において、秋期（10月～12月）のレポート・作品課題もしくは単位修得試験が不合格かつ当該科目以外の卒業要件を充たす見込みの方に限り、冬期の履修を認めることがあります。
詳細はairU学習ガイド>学習方法>卒業判定>卒業予定者のスケジュールを確認してください。

3. 課題提出方法

課題提出形態は「airU」「郵送」「窓口」の3種類です。科目により「airU」のみで受け付けるもの、「郵送」または「窓口」のみで受け付けるものもあります。それぞれの締切日の到着は、「airU」は13時までに大学のサーバーに着信済、「郵送」は本学に必着、「窓口」は京都・瓜生山キャンパス通信教育課程事務局窓口にて17時までに受付済、と定められています。

4. 単位修得試験

テキストレポート科目（TR）では、レポート合格後に単位修得試験が受験可能です。単位修得試験はWeb（airUマイページ）で受験できます。

5. スクーリングの申し込み方法・キャンセル

スクーリング科目（S）の申し込みは3ヶ月ごとに募集を行います。申込スケジュールを確認し、期日内にairUマイページより手続きしてください。また、受講許可後はキャンセル時期により10～100%のキャンセル料が発生します。

6. 藝術学舎科目

年4回3ヶ月ごとの季に分けて開講している一般公開講座です。講座を受講することで通信教育部で有効な単位の修得が可能です。詳細は、藝術学舎Webサイト、パンフレットを参照してください。藝術学舎の単位認定に関してはairU学習ガイド>教育課程>単位認定>藝術学舎取得単位の認定を確認してください。

2. 和の伝統文化コースでの学習の進め方

1. 履修計画の立て方

卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための科目がどのように配置されているのか、各科目の関係性を示した図「カリキュラムマップ」(pp.10~11)を確認し、履修計画の参考にしてください。

- ・総合教育科目…興味のある科目を自由に履修。必修科目はありません。
 - ・学部共通専門教育科目…興味のある科目を自由に履修。2015年度以降入学生は12単位以上必修。
 - ・芸術学科専門教育科目
 - ・和の伝統文化コース専門教育科目
- カリキュラムマップを参考にしましょう。

本年度に入学されたみなさんは、カリキュラムマップのうち、まずSTEP1の科目群の入門科目から履修しましょう。同じ枠内に記載されているテキスト科目とスクーリング科目を並行して学習することでよりいっそう理解を深めることができます。3年次編入学生が2年間で卒業を目指す場合は1年目にSTEP1・STEP2の科目群を中心に履修することに加えて「論文研究Ⅰ-1~2」「論文研究Ⅱ-1~2」も履修してください。

2. テキスト科目の履修の効果的な学び方

テキスト科目は指定されたテキストを読んだ上でレポートを書く（そして試験を受ける）科目ですが、テーマによっては取り掛かりにくいこともあるかと思います。いくつかのテキスト科目はスクーリング科目とセットになっていますので、テキストに手を付けにくいような場合は、まずセットのスクーリング科目を受講してみましょう。そうすることで基礎知識が身につきテキストの理解が深まりますし、先にテキストを読んで分からないところがあればスクーリングの教員に質問することもできます。

「伝統文化基礎講義」……………「伝統文化入門」、「伝統文化研修」
「伝統文化論Ⅰ-1（和歌連歌）」……「詩歌と日本文化」
「伝統文化論Ⅰ-2（中世芸能）」……「伝統芸能の諸相」

卒業要件を満たすためにテキスト科目は避けて通れません。最初は文章の読み方、書き方がよく分からないかもしれませんが、テキスト科目をいくつかこなすと必ず上達しますので、できるだけ早いうちから取り掛かるようにしましょう。

なお、「伝統文化Ⅱ-4（伝統文化の諸問題）」は、本学大学院芸術環境専攻の科目を和の伝統文化コースの学生の方にも開放する形態で開講しています。そのため、初学者向け科目ではありません。

3. コース専門教育科目以外からも学ぶ

コース専門教育科目以外にも、学科専門教育科目、学部共通専門教育科目、総合教育科目が用意されています。これらの科目を合わせて履修することによって、より幅広い知識・教養を身につけることができます。そうすることで、コース関連科目の理解もさらに深まるはずです。

また、一般公開講座「藝術学舎」でもコースの学修に関連する講座が春夏秋冬の四季ごとに開講されています。それらは本学通信教育課程の単位として認定されるものが多数あります。コースの授業とはまた角度が違う多彩な内容になっていますので、各季に発行されるパンフレットで講座内容を確認した上で受講されることをお勧めします。

3. 2023年度の主な変更事項および注意点

【変更点】

1. レポートの提出方法について

2023年度より、TR科目のレポート提出方法が「Web・郵送・窓口」のものについては「Web」のみに変更になります。なお、「郵送・窓口」提出のものについてはこれまで通り変更ありません。これに伴い、「Web」提出と「郵送・窓口」提出のもので提出期間が異なる場合がありますので、必ずシラバスで提出期間を確認してください。

2. 単位修得試験の受験方法について

対面での単位修得試験は2022年度をもって終了し、2023年度よりWeb試験のみになります。

3. スクーリングの申し込み方法について

郵送・窓口でのスクーリング申し込みは2022年度をもって終了し、2023年度よりWeb申し込みのみになります。

4. 2024年度文芸コース「手のひら芸大」移行に伴う閉講科目について

2024年度より文芸コースは「週末芸大」から「手のひら芸大」へ移行します。それに伴い2023年度で閉講する科目がありますので、履修したい科目がある場合は今年度中に履修するようにしてください。閉講科目については本コースガイドp.5を確認してください。

【注意点】

1. 遠隔化にかかわるサポートについて

- ・2020年度以前入学の方でインターネット環境の利用が難しい場合は、個別に事務局までご相談ください。
 - －「卒業要件」「卒業研究着手要件」にかかわる科目が遠隔開講で受講が困難な場合
 - －airUマイページからのスクーリングレポート提出が困難な場合 など。
- ・airUマイページやZoom等の基本的な利用方法については、年度当初に行われるガイダンスや資料等を準備しています。随時airUマイページ「お知らせ」で周知していきますので確認してください。なお、総合教育科目に「オンライン授業入門」を開講していますが、これまでにパソコンやインターネットを利用したことがない方向けの内容になっています。ガイダンス資料等と重複する内容も多いことをあらかじめご了承ください。

2. スクーリングの申し込みにあたって

スクーリングは、必ず各科目のシラバスを確認して、開講時間・課題・受講地（開講形態）・授業計画などについて十分理解した上で申し込んでください。

- ・開講時間の注意
講義系は1日目3講時＋2日目5講時（0.5講時の授業後試験含む）、演習系は両日5講時の授業です。ただし、一部の科目では1日目と2日目で各4講時ずつの場合や、フィールドワークや遠隔の科目などでは不規則な授業時間となる場合があります。
- ・事前課題/事後課題/受講地（開講形態）などの注意
会場が【京都】【東京】【学外】でも、事前にWebを使った学習が含まれる場合があります。また、「履修の前提条件」として事前課題の提出が求められる場合で、提出をしなかった場合、そのスクーリングは単位認定対象になりません。
- ・同時配信科目の場合
同日に対面・遠隔両方のクラスが行われる同時配信科目においては、スクーリング申し込み時点で受講方法が決まります。後日の選択制ではありません。

4. 専門教育科目一覧

卒業に必要な単位に関しては、まず本『コースガイド』pp.7～9をお読みください。

入学年度によって□新要件、■旧要件となりますので、それぞれの要件での履修を行ってください。

□新要件	2019年度以降入学（1年次入学、3年次編入学）
■旧要件	2015～2018年度入学（1年次入学、2・3年次編入学）

科目一覧					卒業要件				配 当 年 次	
科目群	科目 区分	科目 コード	科目名	単位 数	S ／ T	■新要件		■旧要件		
						1年次入学	3年次編入学	1年次入学		3年次編入学
						124単位以上 (専門60単位以上)	62単位以上 (専門60単位以上)	124単位以上 (専門60単位以上)		62単位以上 (専門60単位以上)
専門教育科目	芸術学科専門教育科目	50251	芸術学基礎	2	TR					1年次～
		50252	美術史学基礎	2	TR					
		50253	地域芸術理論	2	TR					
		50254	京都学入門	2	TR					
		50255	史科学基礎	2	TR					
		50256	史料講読基礎	2	TR					
		50257	文化批評概論 ※1	2	TR					
		50264	日本文化の源流	2	TR					
		50265	日本文化と東アジア	2	TR					
		50266	日本の生活文化	2	TR					
		50101	芸術学概論	1	S					
		50102	日本美術論	1	S					
		50103	西洋美術論	1	S					
		50104	アジア美術論	1	S					
		50105	美術史学概論	1	S					
		50106	音楽文化論	1	S					
		50107	京都の歴史	1	S					
		50108	文献資料講読	1	S					
		50109	京都学研修1	1	S					
		50110	京都学研修2	1	S					
		50111	江戸の歴史	1	S					
		50112	神話学入門 ※1	1	S					
		50113	世界の古典を読む ※1	1	S					
		50114	日本の古典を読む ※1	1	S					
		50115	京都の文芸 ※1	1	S					
		50116	短歌と俳句 ※1	1	S					
		50117	インタビューと取材の方法論 ※1	1	S					
		50219	伝統芸能の諸相	1	S	●	●	●	●	
		50220	伝統芸能と工芸	1	S	●	●	●	●	
		50222	詩歌と日本文化	1	S	●	●	●	●	
		50223	花道文化の展開	1	S	●	●	●	●	
		50224	伝統文化の空間	1	S	●	●	●	●	
		50225	室礼ともてなし	1	S	●	●	●	●	
			仏教美術論 ※2018年度まで開講	2	S					
			文化芸術遺産フィールドワーク1 ※2018年度まで開講	1	S					
			文化芸術遺産フィールドワーク2 ※2018年度まで開講	1	S					
			文化芸術遺産フィールドワーク3 ※2018年度まで開講	1	S					
			文化芸術遺産フィールドワーク4 ※2018年度まで開講	1	S					
			地域芸術学フィールドワーク ※2018年度まで開講	1	S					
			絵画と日本文化 ※2018年度まで開講	1	S					
	茶道文化の展開 ※2018年度まで開講	1	S							
50268	論文研究基礎演習	2	TX					2年次～		
50227	論文研究基礎	1	S							
50232	論文研究特論	1	S					3年次～		
50269	論文研究Ⅰ－2	1	TX	●	●	●	●			
50270	論文研究Ⅱ－2	1	TX	●	●	●	●			
50228	論文研究Ⅰ－1	1	S	●	●	●	●			
50229	論文研究Ⅱ－1	1	S	●	●	●	●			
50267	論文研究Ⅲ	2	TX					4年次～		
50691	卒業研究	8	TX	●	●	●	●			

※1：2023年度をもって閉講する科目

科目一覧					卒業要件				配当年次	
科目群	科目区分	科目コード	科目名	単位数	S／T	■新要件		■旧要件		
						1年次入学	3年次編入学	1年次入学		3年次編入学
						124単位以上 (専門60単位以上)	62単位以上 (専門60単位以上)	124単位以上 (専門60単位以上)		62単位以上 (専門60単位以上)
専門教育科目	コース専門教育科目	54603	伝統文化基礎講義	2	TR	●	●	●	●	1年次～
		54604	伝統文化論Ⅰ－1	2	TR	●	●	●	●	
		54605	伝統文化論Ⅰ－2	2	TR	●	●	●	●	
		54606	伝統文化論Ⅰ－3	2	TR	●	●	●	●	
			伝統文化論Ⅰ－4 ※2018年度まで開講	2	TR					
			伝統文化論Ⅱ－1 ※2018年度まで開講	2	TR					
		54609	伝統文化論Ⅱ－2	2	TR	●	●			
		54610	伝統文化論Ⅱ－3	2	TR	●	●			
		54611	伝統文化論Ⅱ－4 ※2019年度より新設	2	TR	●	●			
		54118	伝統文化入門	1	S	●	●	●	●	
		54119	伝統文化研修	1	S	●	●			
		54120	伝統文化実践Ⅰ－1	1	S	●	●			
			伝統文化実践Ⅰ－2 ※2018年度まで開講	1	S					
			伝統文化実践Ⅰ－3 ※2018年度まで開講	1	S					
		54121	伝統文化実践Ⅰ－4	1	S	●	●			
		54122	伝統文化実践Ⅱ－1	1	S					
			伝統文化実践Ⅱ－2 ※2018年度まで開講	1	S					
		54123	伝統文化実践Ⅱ－3	1	S					
		54124	伝統文化実践Ⅱ－4	1	S					
			伝統文化Ⅰ－1※2018年度まで開講	2	S					
		54125	伝統文化Ⅰ－2	1	S					
			伝統文化Ⅰ－3※2018年度まで開講	2	S					
		54126	伝統文化Ⅰ－4	1	S					
			伝統文化Ⅱ－1※2018年度まで開講	2	S					
		54127	伝統文化Ⅱ－2	1	S					
			伝統文化Ⅱ－3※2018年度まで開講	2	S					
		54128	伝統文化Ⅱ－4	1	S					
その他	総合教育科目・学部共通専門教育科目・コース専門教育科目・資格関連科目などから自由に選択。									
総合計						124単位以上	62単位以上	124単位以上	62単位以上	

※TR：テキストレポート科目、TX：テキスト特別科目、S：スクーリング科目、●：必修科目

(注1) 2018年度まで旧科目名で開講していた科目は、p.19の新旧科目対応表で確認してください。旧科目名で単位修得済の場合、履修することはできません。

(注2) 配当年次：スムーズに履修がなされるための規定であり、その年次に到達しないと履修はできません。さらに科目に別途履修条件がある場合は、その条件を満たす必要があります。

5. 卒業要件、卒業研究着手要件

「卒業要件」とは、卒業するために定められている最低単位数や必修科目のことです。

和の伝統文化コースの場合は、その必修科目のひとつが「卒業研究」です。「卒業研究」に着手するためには、その前年度末までに、いくつか要件を満たしておかなければなりません。これを「卒業研究着手要件」といいます。

「卒業要件」や「卒業研究着手要件」は入学区分によって、以下のように定められています。自分の希望の年度にこの要件を満たし、「卒業研究」に着手し、卒業できるよう、p.14以降の履修モデルを参考に、計画的に学習に取り組んでください。

■新要件（2019年度以降入学）

1年次入学（卒業要件124単位以上）

	科目群	修得すべき単位数	備考(左記のうち、修得すべき科目など)
卒業研究 着手要件	学部共通専門教育科目	8単位以上	
	芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	24単位以上	T科目: 12単位以上 S科目: 6単位以上 「論文研究Ⅰ-2」「論文研究Ⅱ-2」 「伝統文化基礎講義」 「伝統文化論Ⅰ-1」「伝統文化論Ⅰ-2」「伝統文化論Ⅰ-3」必修 「論文研究Ⅰ-1」「論文研究Ⅱ-1」必修
	その他(注1)	58単位以上	
	合計	90単位以上	3年以上在学していること(休学期間を除く)
卒業要件	学部共通専門教育科目	12単位以上	
	芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	48単位以上	T科目: 24単位以上 S科目: 12単位以上 「論文研究Ⅰ-2」「論文研究Ⅱ-2」「卒業研究」 「伝統文化基礎講義」 「伝統文化論Ⅰ-1」「伝統文化論Ⅰ-2」「伝統文化論Ⅰ-3」 「伝統文化論Ⅱ-2」「伝統文化論Ⅱ-3」「伝統文化論Ⅱ-4」必修 「伝統芸能の諸相」「伝統芸能と工芸」「詩歌と日本文化」 「花道文化の展開」「伝統文化の空間」「室礼ともてなし」 「論文研究Ⅰ-1」「論文研究Ⅱ-1」 「伝統文化入門」「伝統文化研修」 「伝統文化実践Ⅰ-1」「伝統文化実践Ⅰ-4」必修
	その他(注1)	64単位以上	
	合計	124単位以上	S科目30単位以上

3年次編入学（卒業要件62単位以上、専門60単位以上）

「入学許可証・卒業要件通知」の総合計に「履修免除62単位（うちスクーリング科目6単位）」の記載がある方は以下に該当します。

	科目群	修得すべき単位数	備考(左記のうち、修得すべき科目など)
卒業研究 着手要件	学部共通専門教育科目	8単位以上	
	芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	24単位以上	T科目: 12単位以上 S科目: 6単位以上 「論文研究Ⅰ-2」「論文研究Ⅱ-2」 「伝統文化基礎講義」 「伝統文化論Ⅰ-1」「伝統文化論Ⅰ-2」「伝統文化論Ⅰ-3」必修 「論文研究Ⅰ-1」「論文研究Ⅱ-1」必修
	合計	32単位以上	1年以上在学していること(休学期間を除く)
卒業要件	学部共通専門教育科目	12単位以上	
	芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	48単位以上	T科目: 24単位以上 S科目: 12単位以上 「論文研究Ⅰ-2」「論文研究Ⅱ-2」「卒業研究」 「伝統文化基礎講義」 「伝統文化論Ⅰ-1」「伝統文化論Ⅰ-2」「伝統文化論Ⅰ-3」 「伝統文化論Ⅱ-2」「伝統文化論Ⅱ-3」「伝統文化論Ⅱ-4」必修 「伝統芸能の諸相」「伝統芸能と工芸」「詩歌と日本文化」 「花道文化の展開」「伝統文化の空間」「室礼ともてなし」 「論文研究Ⅰ-1」「論文研究Ⅱ-1」 「伝統文化入門」「伝統文化研修」 「伝統文化実践Ⅰ-1」「伝統文化実践Ⅰ-4」必修
	その他(注1)	2単位以上	
	合計	62単位以上	S科目24単位以上

■旧要件（2015～2018年度入学）

1年次入学（卒業要件124単位以上）

	科目群	修得すべき単位数	備考(左記のうち、修得すべき科目など)
卒業研究 着手要件	学部共通専門教育科目	8単位以上	
	専門教育科目		
	芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	24単位以上	T科目: 12単位以上 「論文研究Ⅰ-2」「論文研究Ⅱ-2」 「伝統文化基礎講義」 「伝統文化論Ⅰ-1」「伝統文化論Ⅰ-2」「伝統文化論Ⅰ-3」必修
		S科目: 6単位以上	「論文研究Ⅰ-1」「論文研究Ⅱ-1」必修
	その他(注1)	58単位以上	
	合計	90単位以上	3年以上在学していること(休学期間を除く)
卒業要件	学部共通専門教育科目	12単位以上	
	専門教育科目		
	芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	48単位以上	T科目: 24単位以上 「論文研究Ⅰ-2」「論文研究Ⅱ-2」「卒業研究」 「伝統文化基礎講義」 「伝統文化論Ⅰ-1」「伝統文化論Ⅰ-2」「伝統文化論Ⅰ-3」必修
		S科目: 12単位以上	「伝統芸能の諸相」「伝統芸能と工芸」「詩歌と日本文化」 「花道文化の展開」「伝統文化の空間」「室礼ともてなし」 「論文研究Ⅰ-1」「論文研究Ⅱ-1」「伝統文化入門」必修
	その他(注1)	64単位以上	
	合計	124単位以上	S科目30単位以上

3年次編入学（卒業要件62単位以上、専門60単位以上）

「入学許可証・卒業要件通知」の総合計に「履修免除62単位（うちスクーリング科目6単位）」の記載がある方は以下に該当します。

	科目群	修得すべき単位数	備考(左記のうち、修得すべき科目など)
卒業研究 着手要件	学部共通専門教育科目	8単位以上	
	専門教育科目		
	芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	24単位以上	T科目: 12単位以上 「論文研究Ⅰ-2」「論文研究Ⅱ-2」 「伝統文化基礎講義」 「伝統文化論Ⅰ-1」「伝統文化論Ⅰ-2」「伝統文化論Ⅰ-3」必修
		S科目: 6単位以上	「論文研究Ⅰ-1」「論文研究Ⅱ-1」必修
	合計	32単位以上	1年以上在学していること(休学期間を除く)
卒業要件	学部共通専門教育科目	12単位以上	
	専門教育科目		
	芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	48単位以上	T科目: 24単位以上 「論文研究Ⅰ-2」「論文研究Ⅱ-2」「卒業研究」 「伝統文化基礎講義」 「伝統文化論Ⅰ-1」「伝統文化論Ⅰ-2」「伝統文化論Ⅰ-3」必修
		S科目: 12単位以上	「伝統芸能の諸相」「伝統芸能と工芸」「詩歌と日本文化」 「花道文化の展開」「伝統文化の空間」「室礼ともてなし」 「論文研究Ⅰ-1」「論文研究Ⅱ-1」「伝統文化入門」必修
	その他(注1)	2単位以上	
	合計	62単位以上	S科目24単位以上

- (注1)：「その他」については、総合教育科目・学部共通専門教育科目・芸術学科専門教育科目・コース専門教育科目・資格関連科目などから自由に選択し合計単位数を満たすこと。
- (注2)：以下の科目を修得している場合は、これに替えるものとする。
- 「伝統文化入門」：「伝統文化入門1」(2014年度まで開講)または「伝統文化入門」(2012年度まで開講)
 - 「伝統文化基礎講義」：「伝統文化入門2」(2014年度まで開講)または「伝統文化入門」(2012年度まで開講)
 - 「伝統文化論Ⅰ-1」：「伝統文化論1」(2014年度まで開講)
 - 「伝統文化論Ⅰ-2」：「伝統文化論2」(2014年度まで開講)
 - 「伝統文化論Ⅰ-3」：「伝統文化論3」(2014年度まで開講)
 - 「伝統文化論Ⅰ-4」：「伝統文化論4」(2014年度まで開講)
 - 「伝統芸能の諸相」：「伝統文化研究Ⅰ-1」(2014年度まで開講)
 - 「伝統芸能と工芸」：「伝統文化研究Ⅰ-2」(2014年度まで開講)
 - 「絵画と日本文化」：「伝統文化研究Ⅰ-3」(2014年度まで開講)
 - 「詩歌と日本文化」：「伝統文化研究Ⅰ-4」(2014年度まで開講)
 - 「花道文化の展開」：「伝統文化研究Ⅱ-1」(2014年度まで開講)
 - 「伝統文化の空間」：「伝統文化研究Ⅱ-2」(2014年度まで開講)
 - 「室礼ともてなし」：「伝統文化研究Ⅱ-3」(2014年度まで開講)
 - 「茶道文化の展開」：「伝統文化研究Ⅱ-4」(2014年度まで開講)
 - 「論文研究Ⅰ-1～2」：「論文研究1」(2014年度まで開講)
 - 「論文研究Ⅱ-1～2」：「論文研究2」(2014年度まで開講)

6. カリキュラムマップ

卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための科目が、どのように配置されているのか、各科目の関係性や配当年次などを示した、カリキュラムの体系性が俯瞰できる図です。履修計画の参考にしてください。

step1 伝統文化を学び始める

◆専門性を深める 和の伝統文化コース専門教育科目

【伝統文化コースの入門】

S1	伝統文化入門※ ¹
TR2	伝統文化基礎講義※ ¹
S1	伝統文化研修※ ¹

◆知識を広める 芸術学科専門教育科目

【伝統文化コースの背景を知る】

TR2 芸	日本文化の源流
TR2 芸	日本文化と東アジア
TR2 芸	日本の生活文化

◆論文とレポートの書き方を学び、 卒業研究（論文・試論）に取り組む

【資料読解の基礎を学ぶ】

TR2 芸	史料学基礎
S1 芸	文献資料講読

step2 専門的な知識を身に付ける

【伝統文化の知識を身に付ける】

TR2	伝統文化論Ⅰ-1 (和歌連歌)※ ²	TR2	伝統文化論Ⅱ-2 (茶道)
TR2	伝統文化論Ⅰ-2 (中世芸能)※ ³	TR2	伝統文化論Ⅱ-3 (煎茶道)
TR2	伝統文化論Ⅰ-3 (近世芸能)	TR2	伝統文化論Ⅱ-4 (花道)

【伝統文化に触れる】

S1	伝統文化実践Ⅰ-1（伝統芸能）
S1	伝統文化実践Ⅰ-4（室礼と道具）

【代表的な伝統文化を学ぶ】

S1 芸	詩歌と日本文化※ ²	S1 芸	花道文化の展開
S1 芸	伝統芸能の諸相※ ³	S1 芸	室礼ともてなし
S1 芸	伝統芸能と工芸	S1 芸	伝統文化の空間

【論文・試論作成の基礎を学ぶ】

S1 芸	論文研究基礎
TX2 芸	論文研究基礎演習
TR2 芸	史料講読基礎

※の同番号はセット履修推奨科目

step3 自身の研究を開始する

step4 自身の研究を仕上げる

【伝統文化を研究する】

S1 伝統文化Ⅰ-2（日本の芸能）

S1 伝統文化Ⅰ-4（書の文化）

S1 伝統文化Ⅱ-2（煎茶の世界）

S1 伝統文化Ⅱ-4（伝統文化の諸問題）

【伝統文化にさらに触れる】

S1 伝統文化実践Ⅱ-1（伝統邦楽）

S1 伝統文化実践Ⅱ-3（花の文化）

S1 伝統文化実践Ⅱ-4（茶の文化）

卒業論文に取り組む

【論文・試論作成のテーマを絞り込む】

S1 芸 論文研究Ⅰ-1

TX1 芸 論文研究Ⅰ-2

S1 芸 論文研究Ⅱ-1

TX1 芸 論文研究Ⅱ-2

TX2 芸 論文研究Ⅲ

研究を仕上げる

【論文・試論の執筆】

TX8 芸 卒業研究

自分の専門領域を決定する

7. 芸術学科専門教育科目 スクーリング日程

○同一科目で複数日程がある場合は、いずれかの日程を選択して履修してください。

配当年次	科目名	スクーリングコード	スクーリング名称	単位	会場	日程	開講期
1年次～	芸術学概論	5010101001	芸術学概論T1	1	東京■	6/17(土)～6/18(日)	春期
		5010101002	芸術学概論E1	1	遠隔	6/17(土)～6/18(日)	春期
		5010101003	芸術学概論K1	1	京都	7/8(土)～7/9(日)	夏期
		5010101004	芸術学概論E2	1	遠隔	7/8(土)～7/9(日)	夏期
	日本美術論	5010201001	日本美術論E1	1	遠隔	7/15(土)～7/16(日)	夏期
		5010201002	日本美術論E2	1	遠隔	11/25(土)～11/26(日)	秋期
	西洋美術論	5010301001	西洋美術論E1	1	遠隔	9/2(土)～9/3(日)	夏期
		5010301002	西洋美術論E2	1	遠隔	11/4(土)～11/5(日)	秋期
	アジア美術論	5010401001	アジア美術論E1	1	遠隔	5/13(土)～5/14(日)	春期
		5010401002	アジア美術論E2	1	遠隔	11/18(土)～11/19(日)	秋期
	美術史学概論	5010501001	美術史学概論K1	1	京都	11/11(土)～11/12(日)	秋期
		5010501002	美術史学概論E1	1	遠隔	11/11(土)～11/12(日)	秋期
		5010501003	美術史学概論T1	1	東京■	12/16(土)～12/17(日)	秋期
		5010501004	美術史学概論E2	1	遠隔	12/16(土)～12/17(日)	秋期
	音楽文化論	5010601001	音楽文化論E1	1	遠隔	8/19(土)～8/20(日)	夏期
		5010601002	音楽文化論E2	1	遠隔	8/26(土)～8/27(日)	夏期
	京都の歴史	5010701001	京都の歴史E1	1	遠隔	7/1(土)～7/2(日)	夏期
		5010701002	京都の歴史E2	1	遠隔	9/2(土)～9/3(日)	夏期
		5010701003	京都の歴史T1	1	東京■	9/2(土)～9/3(日)	夏期
	文献資料講読	5010801001	文献資料講読E1	1	遠隔	5/14(日)	春期
		5010801002	文献資料講読E2	1	遠隔	10/7(土)	秋期
	京都学研修1	5010901001	京都学研修1EK1	1	遠隔+京都	11/4(土)	秋期
		5010901002	京都学研修1EK2	1	遠隔+京都	11/5(日)	秋期
	京都学研修2	5011001001	京都学研修2K1	1	京都	4/22(土)～4/23(日)	春期
		5011101001	江戸の歴史T1	1	東京■	9/16(土)～9/17(日)	夏期
	江戸の歴史	5011101002	江戸の歴史E1	1	遠隔	9/16(土)～9/17(日)	夏期
		5011201001	神話学入門E1	1	遠隔	2024/1/27(土)～1/28(日)	冬期
	神話学入門	5011201002	神話学入門E2	1	遠隔	2024/2/3(土)～2/4(日)	冬期
		5011301001	世界の古典を読むE1	1	遠隔	7/1(土)～7/2(日)	夏期
	世界の古典を読む	5011301002	世界の古典を読むE2	1	遠隔	7/8(土)～7/9(日)	夏期
		5011401001	日本の古典を読むE1	1	遠隔	9/9(土)～9/10(日)	夏期
	日本の古典を読む	5011401002	日本の古典を読むE2【2講時開始】	1	遠隔	2024/1/13(土)～1/14(日)	冬期
		5011501001	京都の文芸K1	1	京都	10/14(土)～10/15(日)	秋期
	京都の文芸	5011601001	短歌と俳句K1【2講時開始】	1	京都	10/21(土)～10/22(日)	秋期
		5011601002	短歌と俳句T1	1	東京■	12/16(土)～12/17(日)	秋期
	インタビューと取材の方法論	5011701001	インタビューと取材の方法論K1	1	京都	9/30(土)～10/1(日)	夏期
		5011701002	インタビューと取材の方法論E1	1	遠隔	10/21(土)～10/22(日)	秋期
	伝統芸能の諸相	5021901001	伝統芸能の諸相E1	1	遠隔	6/3(土)～6/4(日)	春期
		5021901002	伝統芸能の諸相E2	1	遠隔	5/20(土)～5/21(日)	春期
	伝統芸能と工芸	5022001001	伝統芸能と工芸E1	1	遠隔	9/9(土)～9/10(日)	秋期
		5022001002	伝統芸能と工芸E2	1	遠隔	10/14(土)～10/15(日)	秋期
		5022001003	伝統芸能と工芸E1【1講時開始】	1	遠隔+東京■	10/14(土)～10/15(日)	秋期
		5022201001	詩歌と日本文化E1	1	遠隔	10/14(土)～10/15(日)	秋期
	詩歌と日本文化	5022201002	詩歌と日本文化E2	1	遠隔	12/9(土)～12/10(日)	秋期
		5022301001	花道文化の展開E1	1	遠隔	10/7(土)～10/8(日)	秋期
	花道文化の展開	5022401001	伝統文化の空間K1	1	京都	10/28(土)～10/29(日)	秋期
		5022401002	伝統文化の空間E1	1	遠隔	6/17(土)～6/18(日)	春期
	伝統文化の空間	5022501001	室礼ともてなしE1	1	遠隔	7/1(土)～7/2(日)	夏期
		5022501002	室礼ともてなしE2	1	遠隔	9/16(土)～9/17(日)	夏期
2年次～	論文研究基礎	5022701002	論文研究基礎E1	1	遠隔+東京■	6/3(土)	春期
		5022701003	論文研究基礎ET2	1	遠隔+東京■	6/4(日)	春期
		5022701004	論文研究基礎EK1	1	遠隔+京都	7/8(土)	夏期
		5022701005	論文研究基礎EK2	1	遠隔+京都	7/9(日)	夏期
		5022701006	論文研究基礎E2	1	遠隔	9/9(土)	夏期
		5022701007	論文研究基礎E3	1	遠隔	9/10(日)	夏期
		5022701008	論文研究基礎EK3	1	遠隔+京都	9/30(土)	夏期
		5022701009	論文研究基礎EK4	1	遠隔+京都	12/23(土)	秋期
		5022701010	論文研究基礎ET3	1	遠隔+東京■	12/23(土)	秋期
		5022701011	論文研究基礎E4	1	遠隔	2024/2/17(土)	冬期
		5022801001	論文研究Ⅰ-1(芸/卒研は京都)	1	遠隔	7/22(土)～7/23(日)	夏期
		5022801002	論文研究Ⅰ-1(歴/卒研は京都)	1	遠隔	7/22(土)～7/23(日)	夏期
3年次～	論文研究Ⅰ-1(芸歴和)	5022801003	論文研究Ⅰ-1(和/卒研は京都)	1	遠隔	7/22(土)～7/23(日)	夏期
		5022801004	論文研究Ⅰ-1(芸/卒研は東京)	1	遠隔	7/29(土)～7/30(日)	夏期
		5022801005	論文研究Ⅰ-1(歴/卒研は東京)	1	遠隔	7/29(土)～7/30(日)	夏期
		5022801006	論文研究Ⅰ-1(和/卒研は東京)	1	遠隔	7/29(土)～7/30(日)	夏期
		5022901001	論文研究Ⅱ-1(芸歴和)a【美芸/卒研は京都】	1	遠隔	11/25(土)～11/26(日)	秋期
		5022901002	論文研究Ⅱ-1(芸歴和)b【歴伝/卒研は京都】	1	遠隔	12/2(土)～12/3(日)	秋期
	論文研究Ⅱ-1(芸歴和)	5022901003	論文研究Ⅱ-1(芸歴和)c【美芸/卒研は東京】	1	遠隔	12/2(土)～12/3(日)	秋期
		5022901004	論文研究Ⅱ-1(芸歴和)d【歴伝/卒研は東京】	1	遠隔	11/25(土)～11/26(日)	秋期
	論文研究Ⅰ-1(文芸)	5023001001	論文研究Ⅰ-1(文芸)【A/卒研は京都】	1	遠隔	9/23(土)～9/24(日)	夏期
		5023001002	論文研究Ⅰ-1(文芸)【B/卒研は東京】	1	遠隔	9/16(土)～9/17(日)	夏期
	論文研究Ⅱ-1(文芸)	5023101001	論文研究Ⅱ-1(文芸)【A/卒研は京都】	1	遠隔	12/16(土)～12/17(日)	秋期
		5023101002	論文研究Ⅱ-1(文芸)【B/卒研は東京】	1	遠隔	12/23(土)～12/24(日)	秋期
4年次	論文研究特論	5023201001	論文研究特論E1	1	遠隔	8/26(土)～8/27(日)	夏期
		5023201002	論文研究特論E2	1	遠隔	10/28(土)～10/29(日)	秋期
	卒業研究(芸歴和)	50691	卒業研究(芸歴和)面接指導①a【美芸/京都】		京都	5/27(土)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)面接指導①b【歴伝/京都】		京都	5/28(日)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)面接指導①c【美芸/東京】		東京■	5/28(日)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)面接指導①d【歴伝/東京】		東京■	5/27(土)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)面接指導②a【美芸/京都】		京都	8/19(土)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)面接指導②b【歴伝/京都】		京都	8/20(日)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)面接指導②c【美芸/東京】		東京■	8/20(日)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)面接指導②d【歴伝/東京】		東京■	8/19(土)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)口頭試問a【美芸/京都】		京都	2024/1/20(土)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)口頭試問b【歴伝/京都】		京都	2024/1/21(日)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)口頭試問c【美芸/東京】		東京■	2024/1/21(日)	—
		50691	卒業研究(芸歴和)口頭試問d【歴伝/東京】		東京■	2024/1/20(土)	—
	卒業研究(文芸)	50692	卒業研究(文芸)面接指導①		京都	5/20(土)～5/21(日)	—
		50692	卒業研究(文芸)面接指導②		東京■	5/20(土)～5/21(日)	—
		50692	卒業研究(文芸)面接指導③		京都	8/26(土)～8/27(日)	—
		50692	卒業研究(文芸)面接指導④		東京■	8/26(土)～8/27(日)	—
		50692	卒業研究(文芸)口頭試問		京都	2024/1/27(土)～1/28(日)	—
		50692	卒業研究(文芸)口頭試問		東京■	2024/1/27(土)～1/28(日)	—

- ・各申込スケジュールはairU学習ガイドを確認してください。
- ・「会場」欄の「遠隔+京都」、「遠隔+東京」の日程は、web学習（事前課題）に加え、対面授業への参加が必須です。詳細は各シラバス参照。
- ・4年次科目は「卒業研究」(TX 科目)に伴う対面授業（遠隔希望可）のため「スクーリング日程」に含めています。指定された会場・日時に出席する必要があります。

8. 和の伝統文化コース専門教育科目 スクーリング日程

○同一科目で複数日程がある場合は、いずれかの日程を選択して履修してください。

配当年次	科目名	スクーリングコード	スクーリング名称	単位	会場	日程	開講期
1年次～	伝統文化入門	5411801001	伝統文化入門(伝統文化の学び方)E1	1	遠隔	6/17(土)～6/18(日)	春期
		5411801002	伝統文化入門(伝統文化の学び方)E2	1	遠隔	7/1(土)～7/2(日)	夏期
	伝統文化研修	5411901001	伝統文化研修E1	1	遠隔+京都	5/6(土)～5/7(日)	春期
		5411901002	伝統文化研修EK1	1	遠隔+京都	6/24(土)～6/25(日)	春期
	伝統文化実践Ⅰ-1	5412001001	伝統文化実践Ⅰ-1(伝統芸能)E1	1	遠隔	6/10(土)～6/11(日)	春期
		5412001002	伝統文化実践Ⅰ-1(伝統芸能)EK1	1	遠隔+京都	9/2(土)	夏期
		5412001003	伝統文化実践Ⅰ-1(伝統芸能)EK2	1	遠隔+京都	9/3(日)	夏期
	伝統文化実践Ⅰ-4	5412101001	伝統文化実践Ⅰ-4(室礼と道具)E1	1	遠隔	9/2(土)～9/3(日)	夏期
		5412101002	伝統文化実践Ⅰ-4(室礼と道具)E2	1	遠隔	11/11(土)～11/12(日)	秋期
	伝統文化実践Ⅱ-1	5412201001	伝統文化実践Ⅱ-1(伝統邦楽)T1	1	東京■	5/13(土)～5/14(日)	春期
		5412201002	伝統文化実践Ⅱ-1(伝統邦楽)K1	1	京都	2024/1/13(土)～1/14(日)	冬期
	伝統文化実践Ⅱ-3	5412301001	伝統文化実践Ⅱ-3(花の文化)K1	1	京都(学外)■	11/18(土)～11/19(日)	秋期
		5412301002	伝統文化実践Ⅱ-3(花の文化)T1	1	東京(学外)■	2024/2/3(土)～2/4(日)	冬期
	伝統文化実践Ⅱ-4	5412401001	伝統文化実践Ⅱ-4(茶の文化)ET1	1	遠隔+東京■	7/8(土)～7/9(日)	夏期
		5412401002	伝統文化実践Ⅱ-4(茶の文化)K1	1	京都	11/4(土)～11/5(日)	秋期
	伝統文化Ⅰ-2	5412501001	伝統文化Ⅰ-2(日本の芸能)T1	1	東京■	9/23(土)～9/24(日)	夏期
	伝統文化Ⅰ-4	5412601001	伝統文化Ⅰ-4(書の文化)T1	1	東京■	9/30(土)～10/1(日)	夏期
	伝統文化Ⅱ-2	5412701001	伝統文化Ⅱ-2(煎茶の世界)K1	1	京都	7/29(土)～7/30(日)	夏期
	伝統文化Ⅱ-4	5412801001	伝統文化Ⅱ-4(伝統文化の諸問題)E1	1	遠隔	9/23(土)～9/24(日)	夏期

・各申込スケジュールはairU学習ガイドを確認してください。申込締切日の13:00まで。

9. 履修モデル

1) 1年次入学生年間履修モデル

1年次入学生（卒業要件124単位以上）が4年間で卒業すると仮定した場合の年間学習モデルを以下に示します。
全体として、「卒業研究」に集中できるよう高年次になるに従い修得単位数を少なくするようにおすすめします。
実際の履修にあたっては各自の関心に応じて適宜科目を入れ替えてください。
履修計画を立てる際は、卒業要件と各科目の開講状況・履修条件等を確認してください。卒業要件については本『コースガイド』pp.7～9を、各科目の開講状況・履修条件等については受講年度のシラバス各科目のページを確認してください。

注1): TR=テキストレポート科目 TX=テキスト特別科目 S=スクーリング科目 WS=ウェブスクーリング科目（スクーリングの単位数に含みます）
注2): □新: 2019年度以降入学生 ■旧: 2015～2018年度入学生
●=必修科目（必ず単位を修得することが求められる科目）
○=選択必修科目（特定の科目グループのなかから所定の条件に従って科目を選択して必ず単位を修得することが求められる科目）
空白=選択科目（修得するかしないかを含め自由に選択できる科目。ただし卒業要件で定められた修得すべき単位数を最低限選択することが必要（例えば総合計124単位以上を修得すること等））

1年目																	
科目群・区分	科目名	単位数	履修形態 (注1)	新 (注2)	旧 (注2)	春期			夏期			秋期			冬期		
				必修/ 選択	必修/ 選択	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合 教育科目	ことばと表現	1	TR			レポート		試験									
	論述基礎	2	TR						レポート		試験						
	日本の憲法	2	TR									レポート		試験			
	京都を学ぶ	2	TR												レポート		試験
	日本史	2	TR						レポート		試験						
	日本文化論	2	TR									レポート		試験			
	はじめての共通科目	1	S						初回 提出	中間 講評	最終 提出						
	伝統芸術基礎(茶の湯)	1	S									2日間					
学部共通 専門教育 科目	地域芸術実践 1	2	TX												レポート		試験
	芸術史講義(日本)1	2	WS			動画 視聴	レポート	講評 視聴									
	芸術史講義(日本)2	2	WS												動画 視聴	レポート	講評 視聴
	著作権を学ぶ	1	S						2日間								
学科専門 教育科目	京都学入門	2	TR												レポート		試験
	日本文化の源流	2	TR						レポート		試験						
	日本文化と東アジア	2	TR									レポート		試験			
	伝統芸能の諸相	1	S	●	●			2日間									
	詩歌と日本文化	1	S	●	●				2日間								
	室礼ともてなし	1	S	●	●				2日間								
	京都学研修1	1	S										2日間				
コース専門 教育科目	伝統文化基礎講義	2	TR	●	●				レポート		試験						
	伝統文化論 I - 1	2	TR	●	●										レポート		試験
	伝統文化入門	1	S	●	●			2日間									
	伝統文化研修	1	S	●			2日間										
1年目の修得単位数		36															

2年目																	
科目群・区分	科目名	単位数	履修形態 (注1)	□新 (注2)	■旧 (注2)	春期			夏期			秋期			冬期		
				必修/ 選択	必修/ 選択	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合 教育科目	古典日本語	2	TR						レポート		試験						
	文化研究1	2	TR									レポート		試験			
	身体と表現	2	S			初回提出 / 中間講評 / 最終提出											
	数と世界	2	S												初回提出 / 中間講評 / 最終提出		
	民俗学への階段	1	S							2日間							
学部共通 専門教育 科目	造園史1(日本)	2	TR			レポート		試験									
	造園史2(西洋)	2	TR									レポート		試験			
	芸術史講義(ヨーロッパ)1	2	WS									動画視聴	レポート	講評視聴			
	芸術史講義(日本)3	2	WS			動画視聴	レポート	講評視聴									
	芸術史講義(日本)4	2	WS						動画視聴	レポート	講評視聴						
学科専門 教育科目	美術史学基礎	2	TR						レポート		試験						
	日本の生活文化	2	TR			レポート		試験									
	伝統芸能と工芸	1	S	●	●							2日間					
	伝統文化の空間	1	S	●	●							2日間					
	花道文化の展開	1	S	●	●							2日間					
	論文研究基礎	1	S						2日間								
	文献資料講読	1	S					2日間									
	京都学研修2	1	S			2日間											
コース専門 教育科目	伝統文化論Ⅰ-2	2	TR	●	●							レポート		試験			
	伝統文化論Ⅰ-3	2	TR	●	●										レポート		試験
	伝統文化実践Ⅰ-1	1	S	●							2日間						
	伝統文化実践Ⅱ-3	1	S									2日間					
	伝統文化実践Ⅰ-4	1	S									2日間					
2年目の修得単位数		36															
3年目																	

科目群・区分	科目名	単位数	履修形態 (注1)	新 (注2)	旧 (注2)	春期			夏期			秋期			冬期		
				必修/ 選択	必修/ 選択	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合 教育科目	文化研究2	2	TR						レポート		試験						
	宗教学	2	TR									レポート		試験			
	学際的な知への案内	2	TR												レポート		試験
学部共通 専門教育 科目	芸術理論1	2	TR			レポート		試験									
	芸術史講義(ヨーロッパ)2	2	WS												動画 視聴	レポート	講評 視聴
	芸術史講義(アジア)1	2	WS			動画 視聴	レポート	講評 視聴									
	芸術史講義(アジア)2	2	WS												動画 視聴	レポート	講評 視聴
学科専門 教育科目	史科学基礎	2	TR			レポート		試験									
	史料講読基礎	2	TR						レポート		試験						
	論文研究特論	1	S								2日間						
	論文研究基礎演習	2	TX												レポート		
	論文研究Ⅰ－1	1	S	●	●				2日間								
	論文研究Ⅰ－2	1	TX	●	●						レポート						
	論文研究Ⅱ－1	1	S	●	●									2日間			
	論文研究Ⅱ－2	1	TX	●	●										レポート		
コース専門 教育科目	伝統文化論Ⅱ－2	2	TR	●		レポート		試験									
	伝統文化論Ⅱ－3	2	TR	●					レポート		試験						
	伝統文化論Ⅱ－4	2	TR	●								レポート		試験			
	伝統文化実践Ⅱ－1	1	S												2日間		
	伝統文化Ⅰ－2	1	S									2日間					
	伝統文化Ⅰ－4	1	S									2日間					
	伝統文化Ⅱ－2	1	S						2日間								
3年目の修得単位数・内訳		35															

4年目																	
科目群・区分	科目名	単位数	履修形態 (注1)	□新 (注2)	■旧 (注2)	春期			夏期			秋期			冬期		
				必修/ 選択	必修/ 選択	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学部共通 専門教育 科目	芸術理論2	2	TR						レポート		試験				卒業研究着手者は 冬期に卒業関連科目 以外の履修がで きません		
	芸術史講義(アジア)3	2	WS			動画 視聴	レポート	講評 視聴									
	芸術史講義(アジア)4	2	WS						動画 視聴	レポート	講評 視聴						
学科専門 教育科目	地域芸術理論	2	TR			レポート		試験									
	卒業研究	8	TX	●	●	レポート ①	面接 指導①	レポート ②		面接 指導②		レポート ③		卒業成果物 提出	口頭 試問		
コース専門 教育科目	伝統文化Ⅱ－4	1	S						2日間								
4年目の修得単位数・内訳		17															

4年間の合計	124	総合教育科目：28単位	学科専門教育科目：41単位（うちS13単位）
		学部共通科目：31単位	コース専門教育科目：24単位（うちS10単位）

2) 3年次編入学生年間履修モデル

3年次編入学生（卒業要件62単位・専門60単位以上で異分野からの編入学生）が2年間で卒業すると仮定した場合の年間学習モデルを以下に示します。全体として、「卒業研究」に集中できるよう高年次になるに従い修得単位数を少なくするようおすすめします。

実際の履修にあたっては各自の関心に応じて適宜科目を入れ替えてください。

履修計画を立てる際は、卒業要件と各科目の開講状況・履修状況等を確認してください。卒業要件については本『コースガイド』pp.7～9を、各科目の開講状況・履修条件等については受講年度のシラバス各科目のページを確認してください。

注1): TR= テキストレポート科目 TX= テキスト特別科目 S= スクーリング科目 WS= ウェブスクーリング科目 (スクーリングの単位数に含みます)

注2): □新: 2019年度以降入学生 ■旧: 2015～2018年度入学生

●= 必修科目 (必ず単位を修得することが求められる科目)

○= 選択必修科目 (特定の科目グループのなかから所定の条件に従って科目を選択して必ず単位を修得することが求められる科目)

空白= 選択科目 (修得するかしないかを含め自由に選択できる科目。ただし卒業要件で定められた修得すべき単位数を最低限選択することが必要 (例えば総合計124単位以上を修得すること等))

1年目																	
科目群・区分	科目名	単位数	履修形態 (注1)	新 (注2)	旧 (注2)	春期			夏期			秋期			冬期		
				必修/ 選択	必修/ 選択	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学部共通 専門教育 科目	造園史1(日本)	2	TR						レポート		試験						
	造園史2(西洋)	2	TR												レポート		試験
	芸術史講義(日本)1	2	WS			動画 視聴	レポート	講評 視聴									
	芸術史講義(日本)2	2	WS						動画 視聴	レポート	講評 視聴						
	芸術史講義(日本)3	2	WS									動画 視聴	レポート	講評 視聴			
学科専門 教育科目	日本文化の源流	2	TR												レポート		試験
	伝統芸能の諸相	1	S	●	●			2日間									
	伝統芸能と工芸	1	S	●	●							2日間					
	詩歌と日本文化	1	S	●	●				2日間								
	花道文化の展開	1	S	●	●								2日間				
	伝統文化の空間	1	S	●	●							2日間					
	室礼ともてなし	1	S	●	●				2日間								
	論文研究特論	1	S								2日間						
	論文研究Ⅰ-1	1	S	●	●				2日間								
	論文研究Ⅰ-2	1	TX	●	●						レポート						
	論文研究Ⅱ-1	1	S	●	●									2日間			
	論文研究Ⅱ-2	1	TX	●	●										レポート		
コース専門 教育科目	伝統文化基礎講義	2	TR	●	●				レポート		試験						
	伝統文化論Ⅰ-1	2	TR	●	●	レポート		試験									
	伝統文化論Ⅰ-2	2	TR	●	●							レポート		試験			
	伝統文化論Ⅰ-3	2	TR	●	●										レポート		試験
	伝統文化論Ⅱ-2	2	TR	●								レポート		試験			
	伝統文化入門	1	S	●	●		2日間										
	伝統文化研修	1	S	●				2日間									
	伝統文化実践Ⅰ-1	1	S	●							2日間						
	伝統文化実践Ⅰ-4	1	S	●									2日間				
	伝統文化実践Ⅱ-1	1	S												2日間		
1年目の修得単位数・内訳		38															

2年目																		
科目群・区分	科目名	単位数	履修形態 (注1)	□新 (注2)	■旧 (注2)	春期			夏期			秋期			冬期			
				必修/ 選択	必修/ 選択	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学部共通 専門教育 科目	芸術史講義(日本)4	2	WS						動画 視聴	レポート	講評 視聴				卒業研究着手者は 冬期に卒業関連科目以外の履修ができません			
	芸術理論1	2	TR						レポート		試験							
学科専門 教育科目	日本文化と東アジア	2	TR						レポート		試験							
	日本の生活文化	2	TR			レポート		試験										
	卒業研究	8	TX	●	●	レポート ①	面接 指導①	レポート ②		面接 指導②		レポート ③		卒業成果物 提出		口頭 試問		
コース専門 教育科目	伝統文化論Ⅱ-3	2	TR	●		レポート		試験										
	伝統文化論Ⅱ-4	2	TR	●					レポート		試験							
	伝統文化Ⅰ-2	1	S									2日間						
	伝統文化Ⅱ-2	1	S						2日間									
	伝統文化Ⅱ-4	1	S						2日間									
	伝統文化実践Ⅱ-4	1	S										2日間					
2年目の修得単位数・内訳		24																

注1： TR = テキストレポート科目 TX = テキスト特別科目 S = スクーリング科目 WS = WEBスクーリング科目

2年間の合計	62																
		学部共通科目：14単位 学科専門教育科目：25単位（うちS9単位） コース専門教育科目：23単位（うちS9単位）															

10. 新旧科目対応表

下表の「旧科目名」で単位修得済の科目は、「新科目名」で再度履修することはできません。

■芸術学科専門教育科目

2018年度まで			
旧科目コード	旧科目名	ST	単位数
51618	芸術学演習Ⅰ－1(芸術学基礎演習)	TX	2
52622	歴史遺産基礎講義1	TR	2
52106	歴史遺産学研修6(京都の祭)	S	1
52109	歴史遺産Ⅰ－3(江戸文化論)	S	2
53104	文芸Ⅰ－3(世界の古典)	S	2
53107	文芸Ⅱ－2(短歌・俳句・近現代詩)	S	2
53111	文芸Ⅲ－2 (インタビューと調査で書く・ネットメディアに書く)	S	1
53114	文芸Ⅲ－5(文芸の京都)	S	1
50215	文化史特論	S	2

2014年度まで			
旧科目コード	旧科目名	ST	単位数
50011	芸術学概論	S	2
50010	歴史遺産学概論	S	2
52032	歴史文化論6	S	2
52609	文献講読1(京都学史料)	T	4
50061	文芸研究1	S	2
50071	伝統文化研究Ⅰ－1	S	1
50072	伝統文化研究Ⅰ－2	S	1
50073	伝統文化研究Ⅰ－3	S	1
50074	伝統文化研究Ⅰ－4	S	1
50075	伝統文化研究Ⅱ－1	S	1
50076	伝統文化研究Ⅱ－2	S	1
50077	伝統文化研究Ⅱ－3	S	1
50078	伝統文化研究Ⅱ－4	S	1
52621	論文研究4	T	2

■和の伝統文化コース専門教育科目

2014年度まで			
旧科目コード	旧科目名	ST	単位数
54009	伝統文化入門1	S	2
54602	伝統文化入門2	T	2
50618	伝統文化論1	T	4
50619	伝統文化論2	T	4
50620	伝統文化論3	T	4
50621	伝統文化論4	T	2
54601	伝統文化論5	T	2
52618	歴史遺産学演習6	T	2
52619	歴史遺産学演習7	T	2
54001	伝統芸術演習Ⅰ－1	S	1
54002	伝統芸術演習Ⅰ－2	S	1
54006	伝統芸術演習Ⅱ－2	S	1
54007	伝統芸術演習Ⅱ－3	S	1
54003	伝統芸術演習Ⅰ－3	S	1
54004	伝統芸術演習Ⅰ－4	S	1
54005	伝統芸術演習Ⅱ－1	S	1
54008	伝統芸術演習Ⅱ－4	S	1
51003	芸術研究3	S	2
51004	芸術研究4	S	2
52033	歴史文化論7	S	2
52034	歴史文化論8	S	2
54010	伝統文化特殊講義1	S	2
54011	伝統文化特殊講義2	S	2
52023	論文研究基礎	S	1
51394	論文研究1	ST	2
51395	論文研究2	ST	2

2019年度から			
新科目コード	新科目名	ST	単位数
50251	芸術学基礎	TR	2
50254	京都学入門	TR	2
50110	京都学研修2	S	1
50111	江戸の歴史	S	1
50113	世界の古典を読む	S	1
50116	短歌と俳句	S	1
50117	インタビューと取材の方法論	S	1
50115	京都の文芸	S	1
50232	論文研究特論	S	1

2015年度から			
新科目コード	新科目名	ST	単位数
50202	芸術学概論	S	2
50213	歴史遺産学概論	S	2
50215	文化史特論	S	2
50262	史料講読基礎	TR	2
50263	史料講読応用	TR	2
50217	日本の古典を読む	S	2
50219	伝統芸能の諸相	S	1
50220	伝統芸能と工芸	S	1
50221	絵画と日本文化	S	1
50222	詩歌と日本文化	S	1
50223	花道文化の展開	S	1
50224	伝統文化の空間	S	1
50225	室礼ともてなし	S	1
50226	茶道文化の展開	S	1
50267	論文研究Ⅲ	TX	2

2015年度から			
新科目コード	新科目名	ST	単位数
54101	伝統文化入門	S	2
54603	伝統文化基礎講義	TR	2
54604	伝統文化論Ⅰ－1	TR	2
54605	伝統文化論Ⅰ－2	TR	2
54606	伝統文化論Ⅰ－3	TR	2
54607	伝統文化論Ⅰ－4	TR	2
54608	伝統文化論Ⅱ－1	TR	2
54609	伝統文化論Ⅱ－2	TR	2
54610	伝統文化論Ⅱ－3	TR	2
54102	伝統文化実践Ⅰ－1	S	1
54103	伝統文化実践Ⅰ－2	S	1
54104	伝統文化実践Ⅰ－3	S	1
54105	伝統文化実践Ⅰ－4	S	1
54106	伝統文化実践Ⅱ－1	S	1
54107	伝統文化実践Ⅱ－2	S	1
54108	伝統文化実践Ⅱ－3	S	1
54109	伝統文化実践Ⅱ－4	S	1
54110	伝統文化Ⅰ－1	S	2
54111	伝統文化Ⅰ－2	S	2
54114	伝統文化Ⅱ－1	S	2
54115	伝統文化Ⅱ－2	S	2
54116	伝統文化Ⅱ－3	S	2
54117	伝統文化Ⅱ－4	S	2
50227	論文研究基礎	S	1
50228	論文研究Ⅰ－1	S	1
50269	論文研究Ⅰ－2	TX	1
50229	論文研究Ⅱ－1	S	1
50270	論文研究Ⅱ－2	TX	1

11. 論文研究・卒業研究

「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」（3年次～）、「卒業研究」（4年次）は、各々が自身のテーマを決めて学習の集大成にあたる卒業成果物をまとめあげるための科目です。まずは以下を確認し、各科目の詳細は、該当科目のシラバスを参照してください。

(1年目)	4月	5月	6月	7月	8月
論文研究		「論文研究Ⅰ－1」スクーリング受講申込	「論文研究Ⅰ－1」・発表資料提出	「論文研究Ⅰ－1」・スクーリング受講	
「論文研究Ⅰ－1」スクーリング申込までに… まず、シラバスをよく確認しましょう。そして、テキスト『論文の読み方・書き方』pp.T-3～16をよく読み、研究テーマの設定と史(資)料収集をしましょう。					
(2年目)	4月	5月	6月	7月	8月
卒業研究	レポート①提出	面接指導①	レポート②提出		面接指導②

STEP 1 履修の前提条件を確認しましょう。

「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」「卒業研究」は、履修の前提条件が設定されています。各科目のシラバスの「履修の前提条件」、『コースガイド』の「卒業要件」「卒業研究着手要件」を確認し、計画的に学習を進めていきましょう。

なお、「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」と「卒業研究」は、2年間で連続して受講することが望ましく、また、3年次編入学生が2年間で卒業を目指す場合は、1年目に「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」を修得する必要があります。

STEP 2 研究を始めるための基礎を学びましょう。

「論文研究基礎」（芸術学科専門教育科目/スクーリング科目）

3年次必修科目「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」を受講するために必要な基礎知識、学習のしかた、テーマ探しのヒント、論文をまとめる心構えなどを学びます。3年次編入学生が2年間で卒業を目指す場合は「論文研究Ⅰ－1」を受講する前に、本科目を受講されることをお勧めします。

「論文研究基礎演習」（芸術学科専門教育科目/テキスト科目）

すでに書かれた著作や本、論文をどのように使いこなし、分析していくのか、論文を書くための基礎的、実践的な学習をおこないます。

「論文研究特論」（芸術学科専門教育科目/スクーリング科目）

論文を仕上げていく上での史(資)料の用い方、論証の方法などを、具体的な事例を基に知ることができます。文化史研究の新知見を得るばかりでなく、研究の醍醐味を実感でき卒業研究を深めていく上で参考になります。

9月	10月	11月	12月	1月	2月
「論文研究Ⅰ－2」 課題提出		「卒業研究」に着手するためには、卒業年度の前年度末までに「卒業研究着手要件」を満たす必要があります。今一度、履修状況を確認しましょう。			
「論文研究Ⅱ－1」 スクーリング受講申込 ※追加募集期間に申込		「論文研究Ⅱ－1」 発表資料提出		「論文研究Ⅱ－2」 課題提出	卒業研究レポート① の執筆にとりかかる
		← 「論文研究Ⅱ－1」スクーリング受講 →			
9月	10月	11月	12月	1月	2月
	レポート③提出		最終成果物・ 要約データ提出	口頭試問	

STEP 3 テーマを決定し研究を進めましょう。

「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」は、卒業年次の前年度に受講する科目です。受講にあたっては、「自分自身の研究テーマで、オリジナルな成果物を書く（自分で課題を見出し、解決の方策を探り、成果物を書き上げる）」という能動的な学習意識が必要です。

「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」では、①スクーリング科目で研究の不安や迷いを解消、②テキスト科目でスクーリングの指導をふまえて課題を作成という流れで学習を進めます。

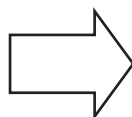
スクーリング科目

- ①「論文研究Ⅰ－1」（7月）
- ③「論文研究Ⅱ－1」（11～12月）

テキスト科目

- ②「論文研究Ⅰ－2」（9月提出）
- ④「論文研究Ⅱ－2」（1月提出）

教員と顔をあわせて相談し、他者の意見を聞くことで、不安や迷いを解消し、自分の研究を客観的に見つめ直し、テーマと研究方法を明確にします。



スクーリングで顕在化した課題に対して自宅で学習を進め、課題を作成します。提出された課題に教員が添削を加えて、次のステップへと導きます。

◆「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」の翌年度に「卒業研究」に着手できない場合

「論文研究Ⅱ－1～2」に合格したにもかかわらず、その他の「卒業研究着手要件」が満たせなかったり、何らかの事由で「卒業研究」の着手を辞退（延期）する場合も、「卒業研究」に向かうための研究は必ず進めておきましょう。「論文研究Ⅱ－1～2」の翌年度に「卒業研究」に着手できなかった方を対象に、「卒業研究」を履修する前年度に研究の進捗状況を報告し、「卒業研究」の準備にあたる課題を作成する、テキスト科目「論文研究Ⅲ」という授業を開講しています。該当する皆さんは、ぜひ履修することをおすすめします。

12. 過去の「卒業成果物」閲覧申込

論文研究・卒業研究の学習を進めるにあたり、過去の卒業成果物を参考にしたい場合は芸術学科在学生でしたら本文全文の閲覧が可能です（2013年度以降のものに限る）。大学に保管が無いものや執筆者が「閲覧不可」としている論文もありますので、閲覧を希望される場合は下記の手順に従い、申し込みを行ってください。

閲覧申込の手順

(1) 論文を探す

airUキャンパスの「アーカイブ」から各コース・年度ごとに確認できます。

(2) 閲覧申込手続きをする

閲覧を希望する場合は、airUマイページの「コンシェルジュ」または「学習・事務手続きに関する質問票」かメール（question@air-u.kyoto-art.ac.jp）で、下記を記載の上申し込んでください。論文を手配する都合上、閲覧希望日の1週間前までに申し込んでください。

件名：卒業論文の閲覧希望

1. 執筆者氏名・執筆年度
2. 執筆者所属コース
3. 論文題目
4. 閲覧希望日時（日程は2候補以上記載してください）
5. 瓜生山キャンパスまたは外苑キャンパス

閲覧方法・注意点

- ・ 瓜生山キャンパスか外苑キャンパスの事務局内でパソコン上または複写した紙媒体での閲覧となります。
- ・ 閲覧は、当日キャンパス内事務局フリースペース内でのみ可能です。閲覧後や席を離れる際は論文を事務局まで戻してください。
- ・ 時間制限は特にありません。一日で閲覧できない場合は再度希望日を申請してください。
- ・ 複写、印刷、撮影は出来ません。なお、ポイントをパソコンまたは手書きでメモすることは制限していません。
- ・ 大学に保管が無いものや執筆者が「閲覧不可」としている論文があります。

13. 学外スクーリングを受講される方へ

●はじめに

学外でのスクーリングでは、博物館、美術館、神社仏閣や歴史的建造物などで研修を行うことがあります。その際には、普段立ち入ることができない場所を訪れる場合もあります。

このような学外でのスクーリングを受講するにあたって、準備しておくといよいものや守らなければならないルールを以下に示しました。大まかには、「文化財に対する配慮」、「団体行動に関する注意」、「体調管理のための持参物」の3点です。しっかり熟読し、理解して、スクーリングに臨んでください。

また、これらの準備物や守るべきルールは、学外スクーリング受講時に限るものではありません。とくに文化財に対する配慮は、過去の人々の営みから生まれ、現在まで守り伝えられてきた文化財を、次の世代に伝えるという点でとても大事な行為です。文化財に接する機会には、「文化財を汚さない、傷めない」ということを意識して行動しましょう。

●学外スクーリングのときの注意点

1：持参物	①筆記用具（鉛筆 [HB～2B]） ②タオル（雨・汗ふき用） ③雨具（折りたたみ傘・カッパ） ④履き替え用の白靴下（建物に上るスクーリング時のみ） ⑤夏のスクーリング時の持参物 ・虫除け・水分補給のためのお茶 ・帽子 夏の学外研修時には日射病・熱射病対策として必ず用意しましょう。日傘は、メモをとるときに妨げとなり、また研修先によってはさせないので、避けましょう。 ⑥冬のスクーリング時の持参物 ・カイロ ・重ね履き用の靴下 寺院拝観時には足がかなり冷えるので、防寒はしっかりしましょう。
2：荷物	荷物はコンパクトにしてください。移動をともなうことや、研修先の障子や襖、建具などにつけて、モノを傷めてしまう可能性があるからです。とくに宿泊の荷物（スーツケース、キャリーバッグ）は、各自最寄り駅のコインロッカーなどに預けてから集合してください。
3：服装	①装飾が少なく身動きのしやすい服装を心がけましょう。障子や襖といった材質の弱いものは、私たちが身につけている衣類によって傷めてしまうことがありますので、建物に上がるスクーリングでは、ジーパンは避けましょう。また、神社仏閣では、ノースリーブ、ランニング、短パンなどは避けましょう。 ②運動靴やウォーキングシューズなど歩くのに適したものを選んでください。パンプスやヒールのある靴は不適です。

4：見学先 での心得	①文化財に触れることが厳禁であることは言うまでもありませんが、狭い場所に露出展示されている場合、故意にでなくとも、着衣や持ち物で引っ掛けてしまう危険があります。そういう立ち居振る舞いも含めて、文化財には触れないよう注意してください。 ②美術館、博物館、宝物館など展示ケースのある施設では、ガラスケースに手などの汚れを付けないよう、触れないように心がけましょう。 ③堂内の仏像や照度を落としてある展示場などで、管理者のご配慮でライトをあてて見せてくださることもあります。個人的にペンライトや懐中電灯で文化財を照らすことはやめましょう。 ④筆記用具は鉛筆（HB～2B）のみです。文化財を汚すのでインクの出るもの（ボールペン、マーカーなど）、シャープペンシルは使用しないでください。また、アクセサリ類、マニキュアなども、文化財の破損・汚染の原因になるので避けましょう。消しゴムのかすなどは、床や畳に落とさずに、紙に包んで持ち帰ってください。 ⑤建物に上って見学する際、素足は厳禁です（ストッキング・タイツも不可）。汗や足の汚れなどで床や畳を汚さないため、必ず靴下を履きましょう。非公開の文化財やお茶室に入る際は、履き替え用の白靴下を準備し、建物に上る前に履き替えましょう。 ⑥建物に上って見学する際、リュックサックなどの背負う荷物は、必ず下ろして前に持ちましょう。場合によっては、貴重品・ノート・鉛筆以外のものは教員・アシスタントの指示に従い、指定の場所に置くか、預けるようにしましょう。 ⑦雨天時や夏場、建物に入る前にタオルで雨や汗を拭くようにしましょう。湿気を嫌う建物や文化財を濡らさないためです。 ⑧建物の中で研修を受ける際、着衣が床をこする恐れのある場合は、裾を折り曲げるなどの配慮をしましょう。 ⑨柱や障子、襖などにもたれたり、触れたりしないように注意しましょう。荷物などを置く場合も、壁や柱に持たせかけてはいけません。 ⑩炉（ろ）の切られている部分に乗ってはいけません（茶室など）。 ⑪扉などにむやみに触れたり、閉じてある扉を開いたりしてはいけません。 ⑫神社仏閣での見学や建物に上っての見学の際は、脱帽しましょう。関係者の方々の出迎えのある場合は、必ず「おじゃまいたします。」「ありがとうございました。」などの挨拶をし、この場を提供していただいたことに対し、感謝の気持ちを表しましょう。 ・建物の中やその周辺（庭園も含む）での飲食は厳禁です。 ・写真撮影・スケッチについては研修先の指示に従ってください。なお、撮影した写真やスケッチは見学先の許諾なく、SNSやインターネット上で公開することを禁じます。 ・参詣者・見学者の妨げにならぬよう周りに気を配りましょう。私語も慎みましょう。 ・グループを離れるなど、勝手な行動は慎んでください。教員・アシスタントの指示に従い、なるべく集団でかたまつて移動するよう心がけましょう。 ・携帯電話の電源は切り、研修時に使用しないでください。 ・学外研修では徒歩で移動を行うことが多くあります。重要文化財を見学する場合もあるため、杖を利用される等の相談があればスクーリング申込み前に事務局にお問い合わせください。
5：その他	【神社仏閣や歴史的建造物で研修を受ける際の心得】 神社仏閣での研修の場合、宗教的に支障がなければ、見学の前もしくは後に合掌・黙礼をしましょう。 貴重な神社仏閣や歴史的建造物を今私たちが目にできるのは、いにしえより幾人もの人々の手によって大切に守り伝えられてきたからにはかなりません。現代に生きる私たちもまた、この人類の貴重な財産を後世の人が目にできるよう大切に守り伝えていかなければなりません。神社仏閣や歴史的建造物で研修を受ける際には、そのかけがえのなさを十分に認識し、興味（自分）本位にならぬよう自己を律しながら、文化財を汚さない、傷めない行動を心がけましょう。 神社仏閣や歴史的建造物は、私たちにとっては学習の場であっても、そこに従事する方や参詣・参拝に訪れている方にとっては生活の場であり、大切な宗教施設です。ていねいに掃除がなされ、清められた場であることを忘れず、真摯な気持ちで研修に臨みましょう。

